



ATOM

第58期報告書

平成23年7月1日～平成24年6月30日

IR NEWS

住まいの飾り職人

ATOM

アトムリビンテック株式会社



経営理念

「住まいの飾り職人」が作り出す
独創的な商品で、
社会の発展に貢献します

社訓

「独り歩きのできる商品づくり」

社是

「創意・誠実・進取」

社名の由来

創業者は江戸指物（鏡台、茶筆筒、長火鉢等）の金具職人、即ち繊細な装飾と微妙な細工の技術を要する鋳職でした。

社訓は、創業者の遺した言葉に基づくものであります。

「独り歩きのできる商品」とは、販売に際して、巧言令色や誇大な表現を添えずとも「ひと目でその価値が相手に伝わる商品」を指します。

当社の社是は、ご覧の通りですが、企画開発を旨とする企業として「創意・進取」は元より、独り歩きのできる商品であればこそ、販売に際して「誠実」が貫き得ると考えております。

また社名の冒頭に冠した「アトム」は設立以来の商標であり、内装金物の分野で、業歴相応の認知と浸透を得ております。

以下に続く「リビングテック」には、ご説明の要も無い「リビングテック」の他に、まさしく「技術に生きる=リブ・イン・テック」の意味が籠められており、併もその技術とは、当社がファブレスメーカーであるだけに、単なるハードウェアのみならず、ソフトウェアをも包含する「ノウハウのメーカー」であり続けたいという思いを表しております。

株主の皆様へ

第58期の業績について、 ご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。当社第58期の報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

第58期におきまして当社が関連する住宅市場は、再開された各種の住宅取得支援政策による需要喚起や被災地における復興住宅の着工増を背景に、新設住宅着工戸数の緩やかな持ち直し傾向が見られたものの、本格的な市場の回復にはいたらない低水準で推移いたしました。

こうした状況のもと、当社は第58期の経営スローガンに「本業に徹する」を掲げ、真摯に事業活動に取り組むことが復興支援につながるとの観点から、社員一人ひとりがそれぞれの持ち場で最大限の努力を重ねてまいりました。とりわけ、販売費及び一般管理費の圧縮など、調整かつ管理可能な諸施策を講じつつ、積極的な商品展開と販路の拡大を推進してまいりました。また、第58期は第7次中期経営計画の最終年度にあたることから、柔軟かつ機動的な経営体制の構築を図るとともに、当面する課題の達成に取り組んでまいりました。

こうした取り組みの結果、第58期の売上高は73億46百万円（前期比7.2%増）、営業利益は2億56百万円（前期比556.8%増）、経常利益は3億18百万円（前期比302.4%増）となり、当期純利益については3億44百万円（前期比212.1%増）と、増収増益を果たすことができました。

今後とも当社は、第58期で示された回復基調をより確かなものとすべく、業績の更なる向上を目指し、全社一丸となって取り組んでまいります。

平成24年9月



代表取締役社長 高橋良一

企画開発型企業としての原点に立ち返り、 市場ニーズに応えるものづくりと営業展開を推進し、 増収増益を達成することができました。

第58期の業績に対する評価について

「本業に徹する」ことで、
ものづくりを再認識し、
本格的な業績の回復を支える
大きな力となりました。

第58期の業績につきましては、ごあいさつの中でご報告させていただきましたが、期初において想定した水準を上回る結果となりました。こうした業績を収めることができた最大の要因は、第58期の経営スローガンに掲げた「本業に徹する」との原点に立ち返り、企画開発型企業である当社のものでづくりを全社的に再認識した結果であると考えています。具体的には、より市場に密着したものづくりと営業展開を推進するため、営業本部直轄で経験豊富な開発要員によって構成される営業設計グループを、同じく営業本部直轄でベテランの営業マンによって構成される販売促進グループを立ち上げ、これらを両輪として市場ニーズに応える商品展開と当社商品の認知度向上、販路の拡大を含む積極的な営業支援活動を展開してまいりました。

商品戦略については、ソフトクローズのトップメーカーとしてソフトクローズ機構をさまざまな分野に導入した商

品群の充実強化と市場への浸透に努めてまいりました。また、商品構成の再構築を図るため、シリーズ商品の集約化を推進するとともに、高い耐久性を追求した使い勝手のよい商品開発を積極的かつ体系的に進めてまいりました。その一方で、激化する価格競争に対応するため、当社子会社の上海阿童木建材商貿有限公司を通じ、海外生産品の安定的な調達に努めるなど、原価低減に向けた取り組みを引き続き行ってまいりました。

市場戦略では、「アトムCSタワー」において、「秋の内覧会」及び「春の新作発表会」の定期的開催をはじめ、当社主催及び各種団体、企業との共催によるセミナーやイベントを恒常的に開催してまいりました。こうした取り組みの結果、「アトムCSタワー」が、新規事業と既存事業との相乗効果を高めるとともに、新分野・異分野との協業を進めるリアルビジネスのコントロールタワーとしての機能と役割を持つことができるようになったと考えております。

情報システム戦略については、「オンラインショップ」で商品アイテムを拡充強化したほか、複数の大手ポータルサイトに出品するなど、販売チャネルの開拓を進めてまいりました。また、IT関連システムの見直しを進め、効率的な帳票管理システムを導入いたしました。このほか、見やすくわかりやすい情報の提供を目指し、当社ホームページを大幅にリニューアルいたしました。

こうした「本業に徹する」取り組みを進めることによって、緩やかな住宅市場の回復傾向を確実に収益へ結びつけることができたことと自負いたしております。そのうえで、第7次中期経営計画の目標に掲げた「伝統と変革の調和的融合」に向けた取り組みが前進し、第8次中期経営計画の基礎を固めることができたことと評価しております。

第8次中期経営計画について

時代と市場の変化に即応できる
事業基盤を確立するため、
「次世代に向けた企画開発力の向上」
に取り組んでまいります。

第7次中期経営計画で掲げた「伝統と変革の調和的融合」は、単に中期経営計画だけの課題ではなく、今後も当社が継続して取り組んでいかなければならないものです。このため、この3年間で経営体制の見直しを進め、部門の再編成、世代交代と意識的に取り組んできました。その結果、営業部門や現業部門はもちろん、業務・管理部門が一体となって価値観を共有する中で、これまでお話ししてきたような目に見える形で成果を上げることができたわけです。

第8次中期経営計画では、厳しい経営環境を乗り越えて獲得してきた第7次中期経営計画の成果を更に拡大し、次世代へいかにつなげていくかが課題になってきます。このため、第59期を基点とする第8次中期経営計画では、「次世代に向けた企画開発力の向上」を基本方針に掲げることといたしました。

幸いにも第7次中期経営計画を推進する中で、ソフトクローズ関連商品の機能性強化に努め、他社との差別化を図

る商品展開を進めることで、ソフトクローズのトップメーカーとしての地位を確立することができました。ソフトクローズ関連商品のヒットを通じ、本来の企画開発型企業としてのものづくりのサイクル、言葉を換えていえば、新技術の開発、そして新商品の開発へといったサイクルの重要性を再認識することができました。

第8次中期経営計画では、こうした企画開発力に更に磨きをかけ、経営環境の変動に左右されにくく、時代と市場の変化に即応できる事業基盤の確立を図ってまいります。また、第7次中期経営計画を引き継ぎ、世代交代を意識した体制整備の最終段階と位置づけ、次世代に向けた企画開発力の向上を掲げ、総合力の強化に努めることとしました。

こうした第8次中期経営計画の2年度目にあたる第60期に、当社は創業110周年、法人改組60周年を迎えることとなります。当社が、「独り歩きのできる商品づくり」「よりよい金物を自ら考え、自ら普及させていく」「創意・誠実・進取」といった理念と哲学を背景に、「古くて新しい企業」として持続的な成長を遂げるため、引き続き「伝統と変革の調和的融合」に努めることが求められています。当社には、長年の経験とノウハウに裏打ちされた、家具金物に本来的に求められる「繊細なものづくりの精神」が脈々と息づいています。また、ソフトクローズ機構にいち早く着目し、住宅関連業界で20年ぶりともいわれる大ヒット商品を生み出した進取の気風を生かし、市場やお客様のニーズに応えるものづくりを進めることで、「伝統と変革の調和的融合」を新たな段階へ引き上げていかなければなりません。

このため、第8次中期経営計画では、世代交代を念頭に置いた積極的な人材の配置、投入とともに、将来を見据えて必要と思われる投資をこれまで以上に積極的に行ってまいります。また、施設面では、第59期においては使い勝手の改善を目指した大阪事業所・アトム住まいの金物ギャラリー

の改装補修工事を、第60期では当社の物流拠点であるアトムC/Dセンターへの設備投資を、第61期では本社社屋の建て替えを視野に入れた検討に着手する予定であります。

第8次中期経営計画では、こうした取り組みを通じて「住空間創造企業」としての将来的展望を視野に入れながら、既存事業で培ってきたノウハウやネットワークを活用することで新規事業との更なるシナジーを追求してまいります。

第59期の取り組みについて

住宅関連産業における
企画開発型企業として、
更に歩を進め、震災復興に寄与する
事業展開を行ってまいります。

第58期では、「本業に徹する」ことが震災復興につながるの観点から、基本に忠実な事業展開を行ってまいりました。第8次中期経営計画の初年度にあたる第59期では、更に歩を進め、第58期で示された収益体制の再構築をより確かなものとするため、震災復興の一端を担うべく、将来を見据えたさまざまな投資の活性化を図りつつ、本来の企画開発型企業として積極的な事業活動を展開してまいります。

こうした観点から、第59期におきまして、これまで当社の事業や商品の情報発信基地として活用してきた「アトムCSタワー」を拠点に、当社とゆかりの深い個人や団体、企業との交流を深めながら新規事業の創出に取り組んでまいりました「オンデマンド事業部」を「アーバンスタイル事業部」と名称変更し、新しい時代の流れ、新しいテーマに向けた事業活動を展開することにいたしました。今後、「アーバンスタイル事業部」では、都市生活におけるスマートでスタ

イリッシュなライフスタイルに関わるさまざまな提案を行いながら、商品開発と販路開拓の具現化を図ってまいります。加えて、ライフスタイルは住宅関連産業においては基礎研究に属するものとの認識のもと、マーケット・リサーチには万全を期し、ここを原点に住宅関連産業に関わるテーマを深掘りすることで当社独自のものづくりを進め、新規事業と既存事業のシナジー創出に注力してまいります。

株主の皆様へ

これまでに培ってきた
有形無形の財産を活用し、
更なる業績の向上に努めてまいります。

当社では、株主の皆様への利益還元を経営の最重要課題に位置づけ、安定的な経営基盤の確保と株主資本利益率の向上に努めるとともに、積極的な配当の実施を基本方針に掲げてまいりました。第58期につきましては、期末の配当金を1株につき10円とさせていただき、中間配当金の10円と合わせ、年間配当金を20円とさせていただきました。また、第8次中期経営計画におきまして、つねに着実な株主還元を目指すべく、「年間配当金は利益水準に関わらず、最低でも1株当たり20円を維持する」ことといたしました。これをベースに業績や記念事業に応じて、より踏み込んだ株主還元を実施すべく努めてまいります。

今後とも当社は、これまでに培ってきた有形無形の財産を活用し、当社の生命線でもある企画開発力に磨きをかけ、より一層、株主価値の向上に努めてまいります。株主の皆様におかれましては、当社の経営方針ならびに経営施策に対するご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ソフトクローズシリーズをはじめ、各種新アイテムを取り揃え、
「2012 春の新作発表会」を開催しました。

当社恒例となりました年2回のセールスプロモーション・イベント「秋の内覧会」と「春の新作発表会」。2012年4月、大阪(4月11~13日)と東京(4月18~20日)で「2012 春の新作発表会」を開催いたしました。

今回の開催では、ソフトクローズシリーズとして当社の強みを生かした上吊り戸で商品ラインナップを追加発表し、実際の動きを体感していただきました。このほか、チューブラ鎌錠や各種ソフトクローズ製品など、新アイテムを取り揃え、「住まいの名脇役」を目指す当社の取り組みをご理解いただくことができました。また、東京会場では、今回初めて館内スタンプラリーを実施し、予想を上回る多くのお客様にご参加いただきました。



「住まいの安全・安心・快適提案」をテーマに、
「ATOM+東海大学 産学協同作品展」を開催しました。

当社では、2008年から東海大学教養学部芸術学科デザイン学課程と協同で、「住まいの安全・安心・快適提案」をテーマに、「ATOM+東海大学 産学協同作品展」を開催してまいりました。

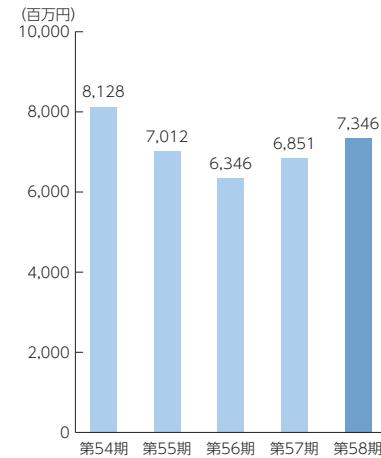
5回目を迎えた今年は、「2012 春の新作発表会」東京会場での同時開催となりました。作品展には、5名の学生が若者ならではの斬新なアイディアやライフスタイルにフィットするユニークな作品を出展いたしました。



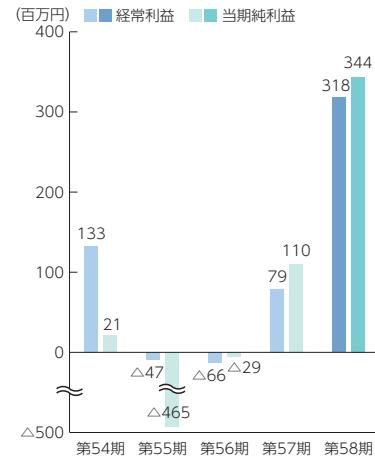
左から三好さん、金子さん、
蛇田さん、高島さん、本多さん

業績の推移

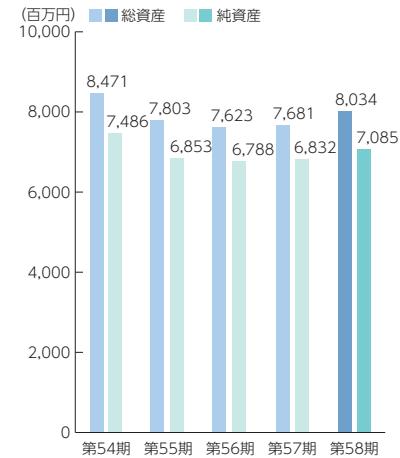
● 売上高



● 経常利益／当期純利益



● 総資産／純資産



● 主要経営指標

	第54期	第55期	第56期	第57期	第58期
売上高営業利益率 (%)	0.3	△1.6	△2.0	0.6	3.5
総資本営業利益率 [ROA] (%)	0.2	△1.3	△1.6	0.5	3.3
自己資本利益率 [ROE] (%)	0.3	△6.5	△0.4	1.6	5.0
流動比率 (%)	736.4	714.8	938.2	815.6	751.6
固定比率 (%)	49.8	51.7	48.3	54.5	52.3
自己資本比率 (%)	88.4	87.8	89.1	88.9	88.2
1株当たり純資産額 (円)	1,823.7	1,717.6	1,701.5	1,712.3	1,776.0
1株当たり当期純利益又は純損失 (△) (円)	5.3	△115.5	△7.4	27.7	86.3
1株当たり配当額 (円)	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00
配当性向 (%)	374.5	-	-	72.3	23.2

※第55期・第56期の配当性向について
当期純損失であるため算定しておりません。

財務諸表

(単位：千円未満切捨て)

科目	期別	前 期 (自 平成22年7月1日 至 平成23年6月30日)	当 期 (自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日)
売上高		6,851,295	7,346,309
売上原価		4,988,858	5,306,173
売上総利益		1,862,437	2,040,135
販売費及び一般管理費		1,823,377	1,783,595
営業利益		39,059	256,540
営業外収益		54,763	62,132
営業外費用		14,705	283
経常利益		79,118	318,390
特別利益		-	-
特別損失		2,938	753
税引前当期純利益		76,180	317,637
法人税、住民税及び事業税		2,468	23,460
法人税等調整額		△ 36,649	△ 50,310
当期純利益		110,361	344,486

損益計算書

Point 営業利益

売上高の増加に伴い売上総利益が増加したことに加え、販売費及び一般管理費の圧縮に努めた結果、前期比217百万円の増益となりました。

Point 法人税等調整額

当期の業績及び今後の業績見通しを踏まえ、繰延税金資産を50百万円追加計上いたしました。

貸借対照表

Point 現金及び預金

前期末に比べ272百万円の増加となりました。
主な理由はキャッシュ・フロー計算書のコメントをご参照ください。

科目	期別 前期 平成23年 6月30日現在	当期 平成24年 6月30日現在
(資産の部)		
流動資産		
現金及び預金	1,605,164	1,877,674
受取手形及び売掛金	1,694,990	1,855,191
有価証券	101,420	99,891
商品	471,535	436,576
その他	86,605	60,399
貸倒引当金	△3,909	△2,788
流動資産合計	3,955,806	4,326,944
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,110,544	1,053,776
工具、器具及び備品(純額)	97,530	88,839
土地	1,027,767	1,027,767
その他(純額)	1,183	2,007
有形固定資産合計	2,237,026	2,172,390
無形固定資産	21,201	13,255
投資その他の資産		
投資有価証券	1,357,473	1,345,518
その他	116,921	176,415
貸倒引当金	△7,144	△12
投資その他の資産合計	1,467,251	1,521,920
固定資産合計	3,725,478	3,707,566
資産合計	7,681,284	8,034,511

(単位：千円未満切捨て)

科目	期別 前期 平成23年 6月30日現在	当期 平成24年 6月30日現在
(負債の部)		
流動負債		
買掛金	349,571	406,608
未払法人税等	5,554	24,811
引当金	-	10,000
その他	129,901	134,265
流動負債合計	485,027	575,685
固定負債		
退職給付引当金	189,584	194,792
役員退職慰労引当金	167,762	177,612
その他	6,896	600
固定負債合計	364,244	373,004
負債合計	849,271	948,690
(純資産の部)		
株主資本		
資本金	300,745	300,745
資本剰余金	273,245	273,245
利益剰余金	6,308,743	6,573,431
自己株式	△64,475	△64,475
株主資本合計	6,818,257	7,082,946
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	13,756	2,874
評価・換算差額等合計	13,756	2,874
純資産合計	6,832,013	7,085,820
負債純資産合計	7,681,284	8,034,511

株主資本等
変動計算書

(自 平成23年7月1日
至 平成24年6月30日)

(単位：千円未満切捨て)

	株主資本									
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金					
				土地圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
当期首残高	300,745	273,245	273,245	43,189	81,916	6,000,000	183,637	6,308,743	△64,475	6,818,257
事業年度中の変動額										
剰余金の配当							△79,797	△79,797		△79,797
当期純利益							344,486	344,486		344,486
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)										
事業年度中の変動額合計	-	-	-	-	-	-	264,688	264,688	-	264,688
当期末残高	300,745	273,245	273,245	43,189	81,916	6,000,000	448,326	6,573,431	△64,475	7,082,946

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	13,756	13,756	6,832,013
事業年度中の変動額			
剰余金の配当			△79,797
当期純利益			344,486
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)	△10,881	△10,881	△10,881
事業年度中の変動額合計	△10,881	△10,881	253,806
当期末残高	2,874	2,874	7,085,820

財務諸表

キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円未満切捨て)

科目	期別	前期 (自平成22年7月1日 至平成23年6月30日)	当期 (自平成23年7月1日 至平成24年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		139,498	420,042
投資活動によるキャッシュ・フロー		△324,574	△67,574
財務活動によるキャッシュ・フロー		△80,332	△79,957
現金及び現金同等物の増加(△減少)額		△265,407	272,509
現金及び現金同等物の期首残高		1,870,572	1,605,164
現金及び現金同等物の期末残高		1,605,164	1,877,674

Point 営業活動によるキャッシュ・フロー

主な資金増加要因は、税引前当期純利益317百万円、資金流出ではない減価償却費158百万円等によるものです。また主な資金減少要因は、売上債権の増加額153百万円等によるものです。

Point 投資活動によるキャッシュ・フロー

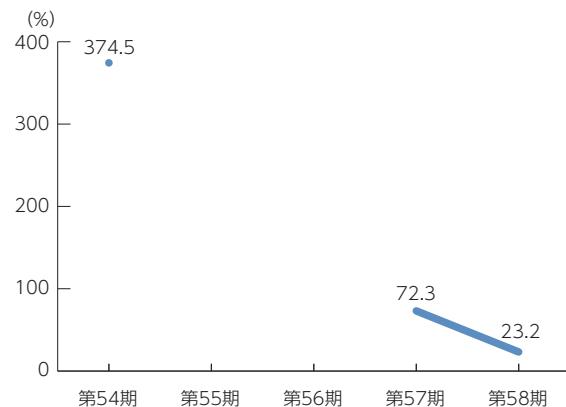
商品開発の金型など有形固定資産の取得による支出92百万円等によるものです。

Point 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払額79百万円によるものです。

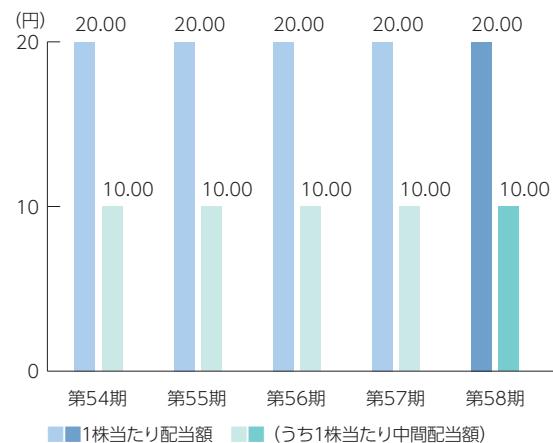
配当状況

● 配当性向



(注) 第55期・第56期について
当期純損失であるため、配当性向は算定していません。

● 1株当たり配当額



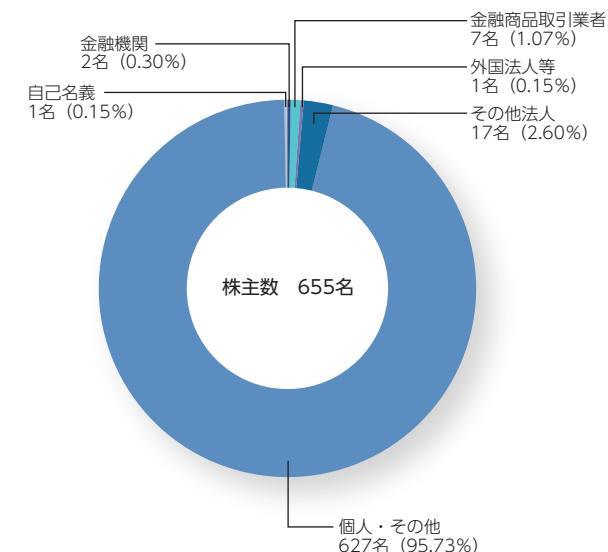
株式の概要

● 株式状況 (平成24年6月30日現在)

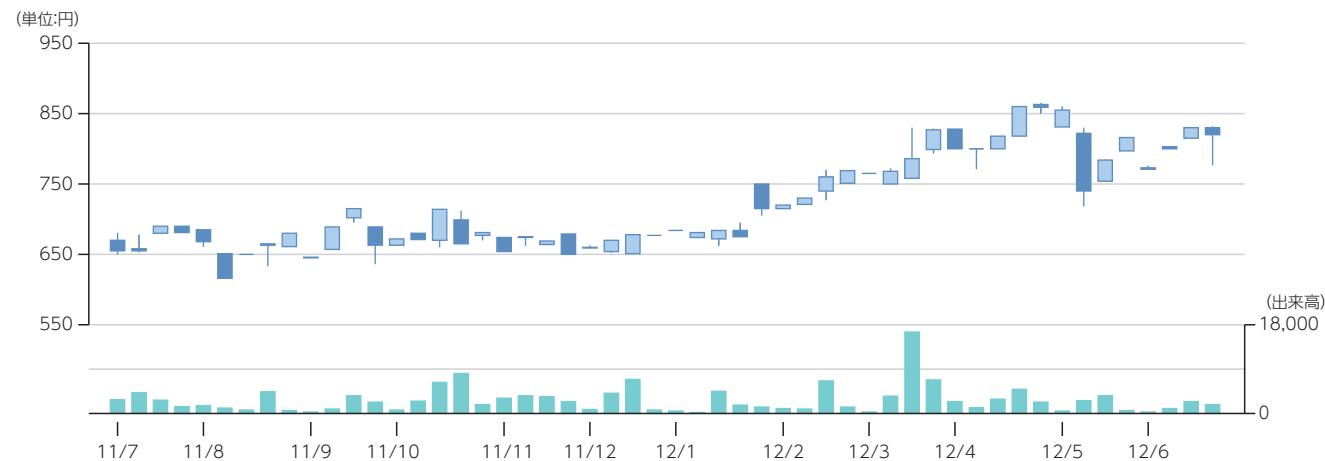
発行可能株式総数 15,420,000株
 発行済株式の総数 4,105,000株
 株主数 655名
 大株主 (上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
高橋不動産株式会社	985,440	24.00
高橋良一	600,000	14.61
アトムリビテック従業員持株会	335,060	8.16
アトムリビテック取引先持株会	284,700	6.93
高橋快一郎	190,000	4.62
高橋寿子	157,000	3.82
大塚李代	137,000	3.33
アトムリビテック株式会社	115,117	2.80
佐藤俊夫	92,600	2.25
磯川産業株式会社	81,500	1.98

● 株主の所有者別分布状況 (平成24年6月30日現在)



株価および出来高の推移



会社概要 (平成24年6月30日現在)

商号 アトムリビンテック株式会社
 創業 明治36年
 設立 昭和29年10月
 事業内容 家具用金物・建具用金物・陳列用金物等、
 住まいの金物全般の企画・開発・販売
 主要取引銀行 株式会社みずほ銀行
 株式会社三菱東京UFJ銀行
 株式会社三井住友銀行
 従業員数 114名(嘱託3名・パート18名含まず)

役員 (平成24年9月25日現在)

代表取締役社長 高橋 良一
 取締役 後藤 厚
 取締役 根本 博
 取締役 森内 弘
 取締役 上田 嗣夫
 常勤監査役 馬場 敏雄
 監査役 輿水 洋一
 監査役 大野 和彦

事業所一覧 (平成24年6月30日現在)

本社
 〒110-8680 東京都台東区入谷1丁目27番4号 TEL 03-3876-0600
アトムC/Dセンター (商品本部)
 〒340-0022 埼玉県草加市瀬崎4丁目15番19号 TEL 048-922-5551
札幌営業所
 〒060-0907 北海道札幌市東区北七条東3丁目28番32号
 井門札幌東ビル1F TEL 011-748-3113
前橋営業所
 〒371-0805 群馬県前橋市南町3丁目72番7号 TEL 027-223-2651
広島営業所
 〒733-0031 広島県広島市西区観音町16番地9 TEL 082-291-4235
アトムCSタワー
 〒105-0004 東京都港区新橋4丁目31番5号
 アーバンスタイル事業部 TEL 03-3437-3673
 ※平成24年7月1日より事業部名称が変更になりました。
 ショップ&ショールーム亜吐夢金物館 TEL 03-3437-3440
アトム住まいの金物ギャラリー大阪事業所
 〒564-0052 大阪府吹田市広芝町18番地5 TEL 06-6821-7281

関連会社 (平成24年6月30日現在)

上海阿童木建材商貿有限公司 (中華人民共和国)

■ ホームページも是非ご覧ください。

<http://www.atomlt.com/>

企業・財務情報をはじめ商品情報・オンラインショップなど、
 様々なコンテンツをご用意しております。ぜひご覧ください。



シリーズ
企画

アトムCSタワー最前線 SPECIAL ISSUE

日ごと進化する
クリエイティブ・スペース

GA-LA-BO

2012年7月1日、アトムCSタワーを拠点に、「アーバンスタイル事業部」が活動を開始いたしました。「アーバンスタイル事業部」は、これまで高い技術力と能力を兼ね備えた異色クリエイターらによるコラボレーション空間「5f+」をはじめ、新分野・異分野との協働による各種セミナーやイベントを開催するなど、新規事業の開拓に努めてきた「オンデマンド事業部」の名称を変更し、精度の高い現場の情報収集、ライフスタイルの変化に応じた企画開発などを推進する役割を担っています。

「アーバンスタイル事業部」では、アトムCSタワー5階に開設した「アーバンスタイル研究所」を核に、「生きることをスタイリングする」をテーマとして、「衣・食・住・遊・楽」のジャンルで活躍するスペシャリストが、生活の質を高める次世代の生活空間の創造に取り組んでいます。これに伴い、5〜7階で展開するクリエイティブ・スペース「GA-LA-BO」を大幅にリニューアルいたしました。また、屋上スペースでは、植物をテーマにしたさまざまな展示やイベントを実施しています。

- アトムCSタワー 東京都港区新橋4-31-5
- 営業時間/月曜日～金曜日 10:00～18:00
- 休館日/土・日曜日 祝日(第1・第3土曜日は営業)



Urban Style

PROJECT

Zakei

ガーデンで育てた植物やリフォームで出た植物を使ったテーブルガーデン座景は、ミニ盆栽サイズから坪庭までサイズも自由。住空間やオフィス、ショップに心を癒す演出を提案します。



Urban Style

PROJECT

Garden Face

設置するだけでフラワーショップに見えたり、シティーガーデンが完成するユニットです。



株主メモ

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月に開催
配当金受領株主確定日	毎年6月30日 中間配当金を支払うときは毎年12月31日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	大阪証券取引所 ジャスダック市場
公告掲載新聞	日本経済新聞

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



アトムリビンテック株式会社

〒110-8680 東京都台東区入谷1-27-4 TEL 03(3876)0600(大代表)
ホームページ <http://www.atomlt.com/>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

